



## 「<sup>い</sup>活きたお金の使い方」とは

岡山県・倉敷市立多津美中学校 3年 山縣 香納絵

我が家は4人家族。我が家の生計は、父のお給料のみで支えられている。両親のおかげで何一つ不自由なく育ててもらってきた。

習字を習いたいと言えば習わせてくれ、塾に行きたいと言えば行かせてくれ、旅行にも連れて行ってくれるし、買い物に行っても欲しいと思うものは買ってくれる。何一つ不自由なく育ててきた私だが、決して甘やかされてぜい沢に育ててきたわけではない。

母は日頃から私達に、  
「こうやって美味しいものが食べられたり、欲しいものが買えたりするのはお父さんが<sup>がんば</sup>頑張って働いてくれてるからよ。お父さんに感謝せんと。」  
とよく言っている。中国で働く父の不便さを思うと、私も本当にそう思う。

そんな母がお金の重みを感じた出来事を私達に話してくれたことがある。私が幼稚園の頃に、母が内職を始めようとし、体験で紙袋を作る仕事をしたそう。体験とはいえノルマもあったため、家事や育児も後回しで、紙で手や腕に切り傷をつくりながらも、必死で頑張ったそう。初めて内職を経験した母にとってそれは相当きつかったらしい。

しかし、何日もかけてそれだけ頑張ったにもかかわらず、もらったお金はわずか1,000円。母はその1,000円札を眺めて、たった1枚の1,000円札にとてつもなく重みを感じたらしい。1,000円ってすぐ使ってしまう金額だけれど、稼ぐのは大変なんだなぁと思った。

だからこそ母は、父に感謝の気持ちを持っていて、私達に対してもお金に関して甘やかすようなことはしてこなかったんだと思う。

私自身のお金といえばお年玉や誕生日にもらったもので、自分が苦勞して働いてもらったお金ではない。今は特に何に使う予定も無いので貯金しているが、いざ使うとなった時に、両親達が頑張って働いて稼いでくれたお金を無駄な使

い方はしたくない。

活きたお金の使い方をするにはどうすればいいのか、私の身の回りのことから考えてみた。

私の母はよく、  
「本なら何冊でも買ってあげる。」

と言う。本なんかすぐ読み終わってしまうし、図書館で借りればお金を払うこともない。一見もったいないように思うが、なぜ母はそう言うのか。

私なりに考えてみると、本を買うことでお金を使うことになるが、それを読むことによって思考力や新たな知識や言葉が身に付き、自分の世界を広げたり、いろいろな考え方を知ったりすることが出来る。本を買うことで本という形のある財産が自分の手に入り、その本からたくさんの利益を得られる。こういうことが活きたお金の使い方だと思う。

他にも私のいとこの大学生が、バイトを頑張ってお小遣いを貯めている。いとは、自分が努力して貯めたお金を旅行に行くことなどに使っている。旅行に行くことによって行き方を自分で考え、それが勉強になったり、その土地の人や文化に触れることが出来たりする。その土地に関しての見聞を広められる。こういうことも、活きたお金の使い方だと思う。

また、少し変わった見方かもしれないが、リユースやリサイクルも活きたお金の使い方になると私は思う。小さい頃の着られなくなった服を友達の家にあげれば、その友達は喜んでくれるし、店に売ればわずかながらお金にもなる。そうすればものを永く使うことが出来て、人とのつながりも深まる。着られなくなった、いらなくなったとってすぐ捨てるようではもったいない。こういう使い方が出来たら、これも活きたお金の使い方だと思う。

ものにあふれた現代では、ものに対する価値観が薄れ、簡単に買い替えたり捨てたりする。これは活きたお金の使い方では無いと思う。何でも手に入る環境は、ものの大切さやお金の重みに対する意識が軽くなっている気がする。お金を使うことで、自分や相手に得られるものがあったり、成長出来たりすることこそが活きたお金の使い方なのだと思は思う。

この作文を書くまでは、お金に関してなど一切考えたこともなかった。私の考える活きたお金の使い方は、私の身近で他にもたくさん発見できた。

お金のありがたみは、将来自分が働くまでは実感しにくいものなのかもしれない。だからこそ、今は両親に感謝し、お金を使うときには自分にとって本当に必要で価値のあるものなのかを見極めることが大切だ。

お金は苦勞して努力して手に入るものだというのを忘れず、私もこれから「活きたお金の使い方」を心掛けていこうと思う。

